

# クロアチア情勢

## 主な出来事

2018年12月

### 内政

- 3日、議会利益相反委員会は、ダリッチ前経済・中小企業相及びマリッチ財務相がアグロコル問題に関して公務における原則に違反したと判断した旨発表。ただし罰金等はなし。
- 6日、クロアチア警察は、1991年にブコバル及びオブチャラで戦争犯罪を行った疑いでブコバル出身の容疑者を数人逮捕。
- 8日、イストラ民主会議(IDS)、市民自由連盟(GLAS)及びクロアチア農民党(HSS)の各党首は、来年の欧州議会議員選挙に向けた協力合意(「アムステルダム連合」の維持)に署名。
- 12日、年金者党(HSU)は、当國中道左派政党による欧州議会選挙を念頭に置いた非公式の協力体制である「アムステルダム連合」に加入する旨公式に発表。
- 13日、ガリッチ防衛・安全保障担当大統領顧問は、偽装テキストメッセージ事件に関与した疑惑がメディア上で指摘され、倫理上の理由から辞意を表明。
- 17日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、国家安全保障会議を開催、プレンコビッチ首相等が出席。
- 21日、大統領府は、ラデリッチ内政担当顧問の解任、フルガ戦略政治・議会・政府関係担当顧問の任命及びミヘリン外交・欧州問題担当顧問の後継としてロガチ外交・欧州問題担当顧問の任命を発表。

### 外交

- 2日、クルスティチェビッチ副首相兼国防相は、アフガニスタンを訪れ、バーラミ・アフガニスタン国防相と会談、クロアチア軍が参加しているNATOの確固たる支援任務(RSM)を視察。
- 3日、ペイチノビッチ＝ブリッチ副首相兼外務・欧州問題相は、ザグレブにおいて、ツィンツァゼ・ウクライナ副首相と会談。
- 3-4日、ザグレブにおいて、中欧イニシアティブ(CEI)首脳会合が開催され、ダンチラ・ルーマニア首相、ザーエフ・マケドニア首相、ラマ・アルバニア首相及びペレグリニ・スロバキア首相は、グラバル＝キタロビッチ大統領、ヤンドロコビッチ議会議長及びプレンコビッチ首相らとそれぞれ会談。
- 4-5日、ペイチノビッチ＝ブリッチ副首相兼外務・欧州問題相は、ブリュッセルで開催されたNA TO外相会合に出席。

- 6日、ペイチノビッチ＝ブリッチ副首相兼外務・欧州問題相は、ミラノで開催されたOSCE外相理事会に出席。
- 10日、ボジノビッチ内務相は、マラケシュで開催された「国連移住グローバル・コンパクト」会合に出席。
- 14日、クロアチア議会は、BHにおけるクロアチア系住民の地位に関する宣言を賛成多数で採択。
- 14日、プレンコビッチ首相は、ブリュッセルで開催された2021－2027年の多年度財政枠組に関するEU首脳会合に出席。
- 17－18日、ペイチノビッチ＝ブリッチ副首相兼外務・欧州問題相は、ポドゴリツァで開催された米・アドリア憲章外相会合に出席。

## 経済

- 3日、クロアチア議会は、2019年政府予算案を賛成多数で承認。2018年当初予算と比べ、歳入は5.5%増、歳出は6.7%増となり、財政赤字はGDP比0.4%となる見通し。
- 3日、ザグレブ県裁判所は、2013年の決定から再度となる、ヘルナディMOL社CEOの勾留措置を決定。
- 5日、クロアチア政府は、2017年の政府助成(state aid)について、支出総額は124億クーナ(対GDP比3.39%)となり、2016年(114億クーナ、同3.25%)及び2015年(99億クーナ、同2.91%)に比べて拡大した旨公表。
- 7日、信用格付会社フィッチ・レーティングスは、クロアチアの信用格付を公表。外貨建て長期発行体デフォルト格付を「BB+」、将来見通しを「ポジティブ」に据え置き。
- 7日、欧州投資銀行と自動車製造会社リマツ・オートモービルは、同社の研究開発及び生産設備の拡張に関する3000万ユーロの融資契約に署名。
- 7日、クロアチア議会は、法定退職年齢の引上げや早期退職者に対する罰則等の導入を含む年金改革関連法案を可決。同法は、2019年1月から施行予定。
- 18日、クロアチア国立銀行は、2019年の経済成長率を2.7%とする見通しを発表。また、EU基金の吸収の促進などにより、投資は前年比6%増となるとの見通し。
- 18日、海事交通インフラ省、クロアチア道路公社及びEUは、リエカ貨物港と高速道路を結ぶアクセス道路の整備に係る協定に署名。総事業費は5.2億クーナとなり、85%をEU基金、残りをクロアチア政府が充当。
- 19日、クロアチア石油公社(INA)の経営委員会は、2019年の事業計画を承認。同社の石油精製事業に関して、リエカの施設に集約する一方、シサクの関連施設を産業センターに転換する方針。
- 20日、クロアチア政府は、2019年の外国人労働者の受入を65100名とする方針を閣議決定。専門人材が不足する建設、観光、運輸部門等に割り当てられる見通し。

- 20日, LNGクロアチア社は, 建設中のLNGターミナルにおけるガス供給施設のリース契約に関する2回目の調達を実施。拘束力のあるオファーとしてINA及びクロアチア電力公社(HEP)が応札したが, 両社による需要量は5. 2億m<sup>3</sup>に止まり, 供給能力(26億m<sup>3</sup>)に対してなお, 低水準。
- 21日, ウリヤニク造船所は, 今年3月に戦略パートナーに選定していた Kermas Energija 社との協定を解消し, 新たな戦略パートナーを選定する方針を発表。
- 28日, クロアチア金融庁は, リエカ商業裁判所に対し, 3Maj造船所の破産手続きを求める申立てを提出。同裁判所は, 今後60日以内に, 破産手続きの開始に向けた条件を検討するためのヒアリングを実施する予定。

### 主要経済指標

(2018年月次データ, 政府統計局発表)

輸出総額(10月)	輸入総額(10月)	貿易赤字(10月)	工業生産高(11月) 対前年同月比	インフレ率(11月) 対前年同月比	失業率(登録制)(11月)
894. 5億クーナ 120. 5億ユーロ (4. 4%)	1471. 2億クーナ 198. 3億ユーロ (7. 4%)	576. 7億クーナ 77. 7億ユーロ (12. 5%)	-0. 8% (10月:-2. 4%)	1. 3% (10月:1. 6%)	9. 4% (10月:9. 1%)

※輸出総額, 輸入総額, 貿易赤字の括弧内の数字は, 対前年同月比。

本クロアチア情勢は, クロアチアの政治・経済情勢を中心に各種報道, 発表をとりまとめたものです。記載事項については在クロアチア日本大使館の見解を示すものではなく, 特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。